

和歌山県名匠

たけ うち ぶん きち 武 内 文 吉

経歴及び業績

昭和2年、日高郡内の尋常高等小学校を卒業後、大阪市内の商店に奉公に出たが、同10年に帰郷して、家業の鍛冶職見習いに入った。

その後、神戸製鋼所や御坊市内の鉄工所勤務を経た後、同22年に鍛冶職として独立した。

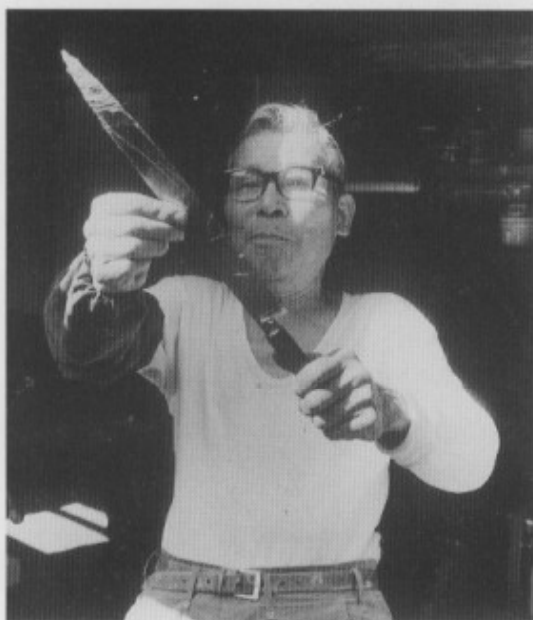
以来、刃物鍛冶として「手打ち 文（カネブン）」の銘で、出刃、柳刃、刺身、菜刀等の包丁類をはじめ、かま、なた、剪定鋏等を製造している。

ふいごと木炭を使用した伝統的な手打ち製法をかたくなに守り続けている県内では貴重な鍛冶職である。

刃金は安来産の最高品を使用し、地金に刃金を取付ける工程から「焼入れ」「研ぎ」「磨き」「柄つけ」の工程までを一貫して自身で行っており、氏の製品には素朴な手作りの味がにじみ出ている。

製品は、日高・有田地方の家庭や農家で愛用されているが、徳島、広島方面へも販売されている。

向打ちは妻の敏子さんがつとめている。



職 種 鍛冶職